

平成23年度「重点研究費」研究成果報告書

申請区分	C	配分額	600,000 円
研究課題	街や地域で育まれるデザイン・美術教育活動の実践的研究		

研究代表者

氏名	所属	職名
鉄矢悦朗	芸術・スポーツ科学系	准教授

研究分担者

氏名	所属	職名

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字)

1) 東日本大震災で大きなダメージを受けている地域で育まれてきたデザイン活動の成果である大野木工生産グループや、会津漆器に関し、スウェーデン、イェーテボリ大学で「TOHOKU QUALITY」 exhibition を開催した。(教育研究経費) その活動を通じて得た作品評価や展示の様子を直接、職人、関係者へ報告し、デザイン活動の意義などを再確認した。また、大野木工生産グループが地域の復興支援に対して行った野田村の保育園を対象としたデザイン活動「森のフォーラム」の助言のほか、学生らが安全管理や活動補助として関わり、直接、地域の人々と交流した。

2) 図工・美術と社会のつながりは非常に密接であるにもかかわらず、なかなか顕在化していない。掛川で行われる地域の美術活動と密接にかかわり、その活動のプロセスや省察を通じて、地域における美術活動のあり方を実践的研究した。

具体的には、本学有志18名(野崎雅子、新井裕史、中村翔太郎、橋本大輔、川島玲子、柴崎浩美、小山沙也子、櫻井美紀、大井沙織、荒井幸子、中井美伽、岩本秀樹、数牛勝太、板垣大地、佐々木咲、佐々木知映、伊東恵里、宮澤果実)が掛川「夏の親子工作教室」(8/14、主催：好きですかけがわのまち実行委員会)を静岡大学(高橋智子研究室)、掛川西高校(美術部)とともに運営スタッフとして親子活動の支援を行った。また、12月から1月にかけて開催される掛川ひかりのオブジェ展には5グループが出品をした。東京学芸大学有志(野崎雅子、荒井幸子)の作品名「sunaboration」と東京学芸大学中等教育教員養成課程美術専攻1年(小山沙也子、水元文香、櫻井美紀)の「あたたかなもの」が「ひかりのオブジェ芸術賞」を受賞。東京学芸大学初等教育美術選修1年(数牛勝太、橋本大輔、中村翔太郎)の「恵」が「二の丸美術館長賞」を受賞。東京学芸大学美術科1年有志(佐々木咲、佐々木知映、伊東恵里)の「プロローグ」が「アイデア賞」を受賞。そして、東京学芸大学大学院有志(本間由佳、篠田花子)の「HOME」は最高賞の「ひかりのオブジェ大賞」を受賞した。参加学生たちは、搬入、搬出だけでなく、イベントの片付けなどを通じて市民や静岡大学の学生と意見交換などを行い、デザイン・美術教育活動の一部は、街や地域に根差したものが多く、その展開などは、街や地域が育んでいることを再認識するに至った。

上記の2点のような実践的研究は図画工作科・美術科教育の広域科学としての在り方を体得していく活動であるばかりでなく、学校教員として地域との関係づくりや、開かれた学校づくりに寄与する人材の育成につながると思う。

研究成果発表方法

親子工作教室は、2011/8/16付の広報かけがわ、および静岡新聞2011/8/16(遠州版)20面に掲載された。

ひかりのオブジェ展の受賞に関しては、2012/1/8付静岡新聞と2012/1/7の中日新聞に掲載された